

授業科目名： 球技（ゴール型）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：仙波 慎平 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、球技（ゴール型）における基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、各種目の基本原則や競技規則について理解を深めます。また、各種目におけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験し、種目の理解を高め、グループごとにトレーニングをプランニングし、中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。 《到達目標》 1. 球技(ゴール型)種目における基礎技術を習得しプレーすることができる。 2. 球技(ゴール型)種目の原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 3. 球技(ゴール型)種目の競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。 4. 球技(ゴール型)種目の授業を計画することができる。			
授業の概要 本科目は、実技の授業形態で行われる。「サッカー」「バスケットボール」「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から、その実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。			
授業計画 第1回： ガイダンス：球技の基本的な特性を学ぶ (基本的なルール、到達目標、授業の実施方法、受講にあたっての諸注意) 第2回： インラインホッケー：基本的動作の修得（インラインホッケーとは）、ミニゲーム 第3回： タグラグビー：基本的動作の修得（タグラグビーとは）、ミニゲーム 第4回： フラグフットボール：基本的動作の修得（フラッグフットボールとは）、ミニゲーム 第5回： バスケットボール：基礎練習＜1＞個人技能（ボール操作・身体の使い方を学ぶ）、ミニゲーム 第6回： バスケットボール：基礎練習＜2＞戦術を学ぶ（解説・試合・まとめ）、チームプレー 第7回： サッカー：基礎練習＜1＞個人技能（ボール操作・身体の使い方を学ぶ）、ミニゲーム 第8回： サッカー：基礎練習＜2＞戦術を学ぶ（解説・試合・まとめ）、チームプレー 第9回： ハンドボール：基礎練習＜1＞個人技能（ボール操作・身体の使い方を学ぶ）、ミニゲーム 第10回： ハンドボール：基礎練習＜2＞戦術を学ぶ（解説・試合・まとめ）、チームプレー 第11回： 模擬授業（小学校に焦点化して） 第12回： 模擬授業（中学1・2年生に焦点化して） 第13回： 模擬授業（中学3年生・高校1年生に焦点化して） 第14回： 模擬授業（入学年次の次の年次以降に焦点化して） 第15回： まとめ			
テキスト：必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 球技（ネット型）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：十河 直太、中安 翼 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、球技(ネット型)における基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、各種目の基本原則や競技規則について理解を深めます。また、各種目におけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験し、種目の理解を高め、グループごとにトレーニングをプランニングし、中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。 《到達目標》 1. 球技(ネット型)種目における基礎技術を習得しプレーすることができる。 2. 球技(ネット型)種目の原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 3. 球技(ネット型)種目の競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。 4. 球技(ネット型)種目の授業を計画することができる。			
授業の概要 球技(ネット型)種目の向上を基盤とし、授業の立案・運営ができるようにする必要がある。球技(ネット型)の競技特性およびゲームの構造・教育効果を学び実践できるようにする。本授業では、基本的な実技能力の修得を目指しとともに、指導上のポイントについて学ぶ。この授業ではグループワークやディスカッションを多く取り入れながら実践を重視した内容を展開する。			
授業計画 第1回： ガイダンス：球技の基本的な特性を学ぶ (基本的なルール、到達目標、授業の実施方法、受講にあたっての諸注意) 第2回： バレーボール (1) 円陣パス・三角パス、ミニゲーム (パス連続回数の競争) 第3回： バレーボール (2) 3段攻撃 (レシーブ・トス・アタック) の練習、ミニゲーム 第4回： バレーボール (3) ゲーム、ルール、審判法、戦略、運営法など 第5回： バドミントン (1) サーブ、ラリー、スマッシュ 第6回： バドミントン (2) フットワーク、ダブルス 第7回： バドミントン (3) ゲーム、ルール、審判法、戦略、運営法など 第8回： 卓球 (1) サーブ、ラリー、スマッシュ 第9回： 卓球 (2) フットワーク、ダブルス 第10回： 卓球 (3) ゲーム、ルール、審判法、戦略、運営法など 第11回： 模擬授業 (小学校に焦点化して) 第12回： 模擬授業 (中学1・2年生に焦点化して) 第13回： 模擬授業 (中学3年生・高校1年生に焦点化して) 第14回： 模擬授業 (入学年次の次の年次以降に焦点化して) 第15回： まとめ			
テキスト：必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 球技（ベースボール型）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐藤伸之 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、球技（ベースボール型）における基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、各種目の基本原則や競技規則について理解を深めます。また、各種目におけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験し、種目の理解を高め、グループごとにトレーニングをプランニングし、中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。 《到達目標》 1. 球技（ベースボール型）種目における基礎技術を習得しプレーすることができる。 2. 球技（ベースボール型）種目の原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 3. 球技（ベースボール型）種目の競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。 4. 球技（ベースボール型）種目の授業を計画することができる。			
授業の概要 本科目は、実技の授業形態で行われる。「ソフトボール」などのベースボール型の球技種目の中から、その実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。			
授業計画 第1回： ガイダンス：球技の基本的な特性を学ぶ （基本的なルール、到達目標、授業の実施方法、受講にあたっての諸注意） 第2回： ソフトボールー守備（打球に合わせた捕球～送球への一連の動作、フットワーク・足さばき）と走塁 第3回： ソフトボールー打撃 第4回： ソフトボールーケースバッティング（無死2塁） 第5回： ソフトボールー総合（攻撃、走塁、守備） 第6回： ソフトボールー練習法アイデアコンペ①（バッティング）、シートバッティング（無死1塁） 第7回： ソフトボールー練習法アイデアコンペ②（バント）、シートバッティング（条件無） 第8回： ソフトボールー練習法アイデアコンペ③（守備）、ゲーム（スローピッチ）、自己評価 第9回： ソフトボールー練習法アイデアコンペ④（走塁）、ゲーム（ファストピッチ）、グループ評価 第10回： その他の球技（ベースボール型） 第11回： 模擬授業（小学校に焦点化して） 第12回： 模擬授業（中学1・2年生に焦点化して） 第13回： 模擬授業（中学3年生・高校1年生に焦点化して） 第14回： 模擬授業（入学年次の次の年次以降に焦点化して） 第15回： まとめ			
テキスト：必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 陸上競技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 梶谷 亮輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 陸上競技の専門的なトレーニング方法や技術に関する知識の習得、および陸上競技における安全管理の方法を理解した上で、走跳投種目（800m、ハードル走、走幅跳、走高跳および砲丸投）の模範を示すことができる。			
授業の概要 陸上競技は、走・跳・投・歩の運動から構成され、内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでいる。競技や練習を行う上では多面性が要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、特に教員採用試験で出題されるであろう基礎的な種目に照準をあて、五種競技を中心に授業を進める。			
授業計画 第1回： ガイダンス、陸上競技の概要 受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング 第2回： 短距離走 短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定 第3回： 走高跳① 走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切 第4回： 走高跳② 踏切～背面跳、記録の測定 第5回： ハードル走① ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ 第6回： ハードル走② インターバル間の走り、記録の測定 第7回： 走幅跳① 走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切 第8回： 走幅跳② 助走の確認、記録の測定 第9回： 砲丸投① 砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ 第10回： 砲丸投② グライド投法、記録の測定 第11回： 800m走 800m走のウォーミングアップ実践、ペース配分、記録の測定 第12回： 跳躍種目の歴史と指導上の留意点の理解 オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。 第13回： ハードル走の歴史と指導上の留意点の理解 オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。 第14回： 砲丸投の歴史と指導上の留意点の理解 オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。 第15回： 800m走の歴史と指導上の留意点の理解 オンデマンド教材を用い、各種目の歴史と指導上の留意点について学ぶ。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 陸上競技入門（関岡康雄著、ベースボールマガジン社） 陸上競技ルールブック（日本陸上競技連盟著、ベースボールマガジン社）			
学生に対する評価 到達目標に対して、実技試験 50%，レポート課題20%，受講態度・学習意欲 30%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 器械運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐野 淳、坂本 康輔 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 本授業は、学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。 ≪到達目標≫ 1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。 2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。			
授業の概要 マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。			
授業計画 第1回： オリエンテーション 授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性について 第2回： マット運動 回転系接転技群 第3回： マット運動 回転系ほん転技群（側方倒立回転・側方倒立回転跳び1/4ひねり） 第4回： マット運動 回転系ほん転技群（頭はねおき・倒立ブリッジ・前方倒立回転） 第5回： マット運動 回転系ほん転技群（前方倒立回転跳び） 第6回： マット運動 連続技・技のつなぎ方について 第7回： とび箱運動 繰り返し系繰り返し跳び 第8回： とび箱運動 回転系回転跳び 第9回： 鉄棒運動 支持系前方支持回転群（前方支持回転・前方膝掛け回転） 第10回： 鉄棒運動 支持系後方支持回転群（後方支持回転・後方膝掛け回転） 第11回： 鉄棒運動 懸垂系 第12回： 総合練習 模擬演技の実践 第13回： マット運動 実技テスト 第14回： 跳び箱運動 実技テスト 第15回： 鉄棒運動 実技テスト			
テキスト 中・高校器械運動の授業づくり（三木四郎・加藤澤男著、本村清人 編著、2006、大修館書店） そのほか必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 新しい体育授業の運動学（三木四郎著、2005、明和出版）			
学生に対する評価 到達目標に対して、出席・態度：30% レポート：10% 実技：60%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： ダンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：小澤 尚子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。</p> <p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。 ・仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。 ・単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。 			
<p>授業の概要</p> <p>中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスを主な内容としつつ、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。</p> <p>実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ</p> <p>第2回： 体づくり運動ウォームアップ、体ほぐしの運動</p> <p>第3回： フォークダンス(1) 外国編ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他</p> <p>第4回： フォークダンス(2) 日本編ソーラン節、阿波踊り他</p> <p>第5回： 現代的なリズムのダンス(1) 上半身の動き（アイソレーション、ウェーブ等）とアームモーションの習得</p> <p>第6回： 現代的なリズムのダンス(2) 基本的なステップの習得と指導法（アップとダウンのリズム等）</p> <p>第7回： 現代的なリズムのダンス(3) 変化のある動きを組み合わせたステップの習得</p> <p>第8回： 現代的なリズムのダンス(4) 現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法</p> <p>第9回： 創作ダンス(1) もの（小道具）を手がかりにした表現の導入（布、紙等を用いて）</p> <p>第10回： 創作ダンス(2) 言葉のイメージを手がかりにした表現の導入（オノマトペダンス）</p> <p>第11回： 創作ダンス(3) 日常動作を手がかりにした表現の導入（美術館編、スポーツ編）</p> <p>第12回： 授業計画(1) ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。</p> <p>第13回： 授業計画(2) ダンス授業における配慮事項について考察する。</p> <p>第14回： 授業計画(3) ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。</p> <p>第15回： まとめ 単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。</p> <p>定期試験 なし</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要な資料を毎時間配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編（平成29年告示、文部科学省）</p> <p>中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示、文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成29年告示、文部科学省）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>到達目標に対して、技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%の割合で、評価を行う。</p>			

授業科目名： 体づくり運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：清田 美紀 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 体づくり運動の実施方法について、実技を通して理解し、実際に授業を作成させることで、実践的な力を養う。また、体づくり運動が実施された経緯とねらいなどを知識として理解する。 ≪到達目標≫ 1. 体づくり運動の学習指導要領上の位置づけについて、ねらいを含めて理解できるようになる。 2. 体づくり運動の授業を計画、実践することができるようになる。 3. 適切な教師行動をとることができるようになる。			
授業の概要 体づくり運動の学習内容である「体ほぐしの運動」と「多様な動きをつくる運動、体力を高める運動」に取り組む。これらの運動は、自己および他者との関わりや、様々な道具および音楽を用いることにより、基本的な運動から複合的に構成した運動へと展開させる。自らの動きや他者の動きを通し、体づくり運動の意義を考え、その必要性和役割を理解する。授業の最終段階では、ねらいに応じた動きを考えながら、一連の動きを構成し実践する。その中で、体づくり運動の指導の方法について吟味し、体づくり運動について、さらに理解を深める。			
授業計画 第1回： オリエンテーション 授業の全体の流れと評価方法について説明する 第2回： 体づくり運動とは 体づくり運動の実践例-1 気付きと調整という課題を中心に、体ほぐしの運動を理解し実践する。 第3回： 体づくり運動とは 体づくり運動の実践例-2 交流という課題を中心に、体ほぐしの運動を理解し実践する。 第4回： 体づくり運動とは 体づくり運動の実践例-3 いくつかの運動を組み合わせたり構成したりして、それらの運動を実生活に生かすことができるように工夫して体ほぐしの運動を行う。 第5回： 多様な動きをつくる運動の実践 様々な楽しい運動を行いながら体の基本的な動きを身につけることや、基本的な動きの質を高める運動を理解し実践する。 第6回： 体力を高める運動の実践-1 体力の必要性や体力を高めるための運動の行い方を理解し、運動の計画を立て実践する。 第7回： 体力を高める運動の実践-2 健康の保持増進や調和のとれた体力向上を図るための継続的な運動の計画を立て実践する。 第8回： 音楽に合わせた動きの基本と発展 テンポよくリズムカルに動くための基本的な技能を身につけ、さらに、様々な曲調の音楽に合わせて動きを持続させることや、いくつかの動きを組み合わせることで多様な動きを含む運動を行うための発展的な技能を身につける。 第9回： 道具を用いた動きの基本と発展-1 短縄や長縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を理解し実践する。 第10回： 道具を用いた動きの基本と発展-2 ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を理解し実践する。 第11回： 道具を用いた動きの基本と発展-3 輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を理解し実践する。 第12回： 道具を用いた動きの基本と発展-4 様々な道具を組み合わせたり、様々な動きを組み合わせたりして、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を理解し実践する。 第13回： グループによる体づくり運動の計画および実践 グループに分かれ、これまで修得した動きを用いて、体づくり運動を計画し実践する。グループでの活動を通し、指導の方法に関する基礎的な能力を身につける。 第14回： グループによる体づくり運動の実践-1 これまで修得した動きを用いて、体づくり運動を実践する。各グループで相互に指導し合うことで、指導の方法に関する実践的な能力を身につける。 第15回： グループによる体づくり運動の実践-2 これまで修得した動きを用いて、体づくり運動を実践する。各グループで相互に指導し合うことで、指導の方法に関する実践的な能力を身につける。今までの授業のまとめを行う。			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」改訂版（文部科学省） 新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」リーフレット（文部科学省） 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック（文部科学省）			
学生に対する評価 到達目標に対して、授業に臨む実践的態度 30%、中間試験 10%、模擬授業の完成度（指導案の完成度を含む） 50%、最終レポート 10%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 柔道	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：矢野 智彦、片桐 夏海 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。 <到達目標> ・ 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解している。 ・ いくつかの基本となる技を身に付けている。			
授業の概要 本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。			
授業計画 第1回： 基礎知識 柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色 第2回： 基本動作 礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき 第3回： 基本動作 後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざをついての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類 第4回： 大腰、送り足払い 大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習 第5回： 大腰（横移動）、払い腰 体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習 第6回： 体落とし、けさ固め 体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み 第7回： 上四方固め、横四方固め、たて四方固め 上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み 第8回： 固め技（攻撃の仕方） 四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表 第9回： 固め技（攻撃の仕方） 約束抑え込み、乱取り（自由練習） 第10回： 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車 小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車 第11回： 固め技の復習 今まで練習した固め技すべてを復習 第12回： 投げ技の復習 今まで練習した投げ技すべてを復習 第13回： 乱取り 固め技の乱取り（自由練習） 第14回： 乱取り 投げ技の乱取り（自由練習） 第15回： まとめ 乱取りの反省と技の研究、総括			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30% の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 剣道	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：堀川 峻 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につける事と共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。 ≪到達目標≫ 剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけながら、中学校での剣道授業を実施できる（教えられる）。			
授業の概要 日本伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」ということを目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中の様々なところで愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける。			
授業計画 第1回： 本授業の内容説明と剣道着袴採寸 本授業の留意点や受講における心構えなどの講話と剣道着と袴の採寸を行う。 第2回： 剣道着・袴の着用方法と剣道理念について 剣道着・袴の着法、剣道防具の着法と収納法の学習と剣道理念と歴史の学習 第3回： 剣道防具と竹刀について 前回の剣道理念の復習と竹刀の規格・手入れ方法と安全管理、防具の扱いについて 第4回： 剣道の礼法について 姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）、立ち合いにおける礼法を学習する。 第5回： 基本動作について（素振り） 竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・跳躍素振り・踏み込み素振りなどを行う。 第6回： 基本動作について（足さばき） 正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。 第7回： 基本動作について（竹刀への打突） 2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。 第8回： 剣道防具の着用 防具の置き方と、面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践。 第9回： 基本稽古（仕掛け技） 防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。また、剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。 第10回： 基本稽古（打ち込み等の様々な稽古法） 基本稽古における仕掛け技の確認と剣道の稽古で一般的に行われる「打ち込み稽古」等を実践。 第11回： 基本稽古（応じ技・引き技） 相手が打突に対応する応じ技の学習とつばぜり合いからの引き技の実践。 第12回： 基本稽古まとめと確認実技試験 これまでに学習した技の振り返りと基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認試験を行う。 第13回： 五角稽古 これまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。 第14回： 試合審判規則に関する知識と実践 試合審判規則の大まかな内容を学習する。また五角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。 第15回： 試合（団体戦における戦い方の学習） 5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制に変更）の実践と総まとめを行う。			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 剣道指導要領（全日本剣道連盟）			
学生に対する評価 到達目標に対して、受講態度50%、剣道実技試験50%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 水泳	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：石川雄一 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。 ≪到達目標≫ 水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。			
授業の概要 水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。 また、個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。			
授業計画 第1回： ガイダンス、水泳理論① 授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ。 第2回： 水泳理論② 安全な水泳授業の実施について学ぶ。 第3回： 水泳理論③ 各泳法の技術理論や指導法について学ぶ。 第4回： 泳力チェック 授業開始時の泳力についてテストする。 第5回： クロール① クロールの基礎的指導を体験する。（浮き姿勢について） 第6回： クロール② クロールの基礎的指導を体験する。（腕の動き・足の動きについて） 第7回： クロール③ クロールの基礎的指導を体験する。（呼吸について） 第8回： 平泳ぎ① 平泳ぎの基礎的指導を体験する。（基本姿勢について） 第9回： 平泳ぎ② 平泳ぎの基礎的指導を体験する。（腕の動き・足の動きについて） 第10回： 平泳ぎ③ 平泳ぎの基礎的指導を体験する。（呼吸・水平姿勢の維持について） 第11回： グループ別練習① 習熟度別のグループで各泳法の練習をする。（クロール、バタフライ） 第12回： グループ別練習② 習熟度別のグループで各泳法の練習をする。（平泳ぎ、背泳） 第13回： 水中運動 水中でのウォーキングやアクアビクスを体験する。 第14回： 泳力テスト 泳力の習熟レベルをチェックする。 第15回： まとめ 授業で学んだことを総括する。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 新水泳指導教本（日本水泳連盟）			
学生に対する評価 到達目標に対して、体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 体育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：友添 秀則、早田 剛 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。			
授業の概要 体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。			
授業計画 第1回： 体育原理とは 1) ガイダンスとして、授業概要を確認する 2) 体育原理という学問が必要なのかについて学び、体育学科を卒業する意味を検討する 第2回： 体育とは 体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する 第3回： 体育とスポーツは何が違うのか 体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する 第4回： 身体からみた体育の可能性 学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え（できる）とはどういうことかを検討する 第5回： 体育で競争をどう位置付けるか 体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する 第6回： 体育における人間形成 体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する 第7回： 体育と指導者 体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する 第8回： スポーツと科学 スポーツ科学は、様々な情報（データ）に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する 第9回： 運動部活動の意義と課題 運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する 第10回： プレイが生み出す体育の可能性 スポーツとプレイ（遊び）について学び、自分の意見を検討する 第11回： スポーツとルール ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する 第12回： スポーツと文化 身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する 第13回： スポーツとビジネス スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する 第14回： スポーツと社会 スポーツ需要の質的变化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する 第15回： スポーツとコミュニティ/まとめ 1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する 2) 体育原理を総括する			
テキスト 現代高等保健体育（大修館書店）			
参考書・参考資料等 教養としての体育原理（友添秀則・岡出美則編、2016年、大修館書店） はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学（高橋 徹編、2021年、サンメッセ株式会社）			
学生に対する評価 到達目標に対して、予習課題20%、意見交換20%、授業後レポート40%、最終レポート20%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 体育心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐々木史之、浦 祐大 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ場面で起こる心理的な問題に対処できるようになる。			
授業の概要 スポーツ活動には、種々の側面から心の関与が認められる。そのことからスポーツ心理学の研究領域ではスポーツ活動で生じる現象を対象に、心理学的手法によりそのメカニズムの解明を行っている。本授業では、スポーツ心理学に関する基礎知識とともに行動変容に向けた心理的アプローチの実践方法について学ぶ。なお、スポーツ現場での実践と共に学びを深め、今後の競技活動や教育活動に活用できることをねらいとする。			
授業計画 第1回： スポーツ心理学について スポーツ心理学の歴史と内容 第2回： スポーツ心理学の研究法 スポーツ心理学の研究領域、研究方法 第3回： スポーツと発達 遺伝と環境、発達、身体と運動の発達 第4回： スポーツと学習 スキルの要素と分類、学習理論、練習の組み立て 第5回： スポーツとパーソナリティ スポーツ選手とパーソナリティ、不安、あがり 第6回： スポーツと動機づけ 動機づけのメカニズム、目標設定 第7回： スポーツと社会心理学 スポーツ集団について、スポーツ場面での他者の存在 第8回： 競技の心理 (1) 競技の心理特性、競技者の心理 第9回： 競技の心理 (2) 指導者の心理、けがと心理 第10回： メンタルトレーニング (1) メンタルトレーニングとは、競技力向上や実力発揮に必要な心理的スキル 第11回： メンタルトレーニング (2) 呼吸法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法 第12回： メンタルトレーニング (3) 心理的技法の実践、暗示、イメージ 第13回： メンタルトレーニング (4) 自己分析に用いる心理検査 第14回： 健康スポーツの心理 運動・スポーツの心理的効果 第15回： スポーツと臨床 パーンアウト、イップス			
テキスト はじめて学ぶスポーツ心理学12講（楠本恭久編著、2015年1月15日、福村出版）			
参考書・参考資料等 現場で活きるスポーツ心理学（石井源信編、2012年8月1日、杏林書院）			
学生に対する評価 到達目標に対して、事前課題30%、授業参加態度30%、振り返り課題20%、最終レポート20%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 体育経営管理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：友添 秀則
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 体育・スポーツ振興に関わる体育指導者は児童生徒の豊かなスポーツライフの基礎を培うために、児童生徒の志向や能力に応じた運動・スポーツ指導を行うことが必要である。学校現場における体育・スポーツ指導を効果的に実践するためには、経営学的な考え方・進め方の理解とその重要性が求められている。			
【授業の到達目標】 1. 体育経営管理についての基礎的な知識、考え方を理解できる。 2. 生徒の実態に即して体育事業をどのように進めたらよいかを学校現場の事例に学び、説明することができる。			
授業の概要 体育やスポーツ活動の場が学校中心から地域や社会に広がり、企業としてのスポーツ経営も活発に展開されつつある。このような状況の中での体育・スポーツ経営管理の考え方・進め方、およびそれにまつわる理論などを理解する。			
授業計画 第1回： 体育・スポーツの指導と体育・スポーツ経営管理学 第2回： 体育・スポーツ経営管理の概念と目的 第3回： 体育・スポーツ経営管理の構造 第4回： 運動者と運動者行動 第5回： 運動者と運動生活 第6回： エリア・サービス（体育・スポーツ事業論1） 第7回： プログラム・サービス（体育・スポーツ事業論2） 第8回： クラブ・サービス（体育・スポーツ事業論3） 第9回： 関連的体育・スポーツ事業（事業論4） 第10回： 体育・スポーツ経営過程と経営機能 第11回： 体育・スポーツの計画・統制論 第12回： 体育・スポーツの経営組織論 第13回： 体育・スポーツの財務・事務 第14回： 体育・スポーツの行政・政策 第15回： 運動事故と補償論			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 「体育経営管理学講義」（大修館書店）宇土正彦 編著			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 40%、課題提出 20%、最終レポート 20%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 体育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：堀川 峻 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツへの関わり方は十人十色であり、一つの事象に対する見解や意見も多種多様である。そうした状況の中で互いに理解を深めるには、自らの意見や感覚を論理的に説明し、他者との意見交流によって相対化することで認識を深める過程が重要である。加えて、特定の社会集団で共通してみられる傾向や偏りを見抜き、因果を理解することも重要である。本授業では以下の2点を目標に設定する。①体育・スポーツに関わる事象を社会学の知見を踏まえて説明することができる。②体育・スポーツ社会学の視点を理解した上で、論理的かつ建設的に他者と意見の交流ができる。			
授業の概要 現代において、スポーツは私たちの生活に深く根ざしている。日常生活の至る所でスポーツに関連する情報に触れることができる一方で、スポーツの大衆化と機能の拡大は多様な社会問題を引き起こしている。近年の例を挙げれば、暴力に関する問題や、オリンピックと政治の問題、運動部活動の運営問題など、スポーツの抱える問題も膨大となっている。スポーツに関わる中では、そうした社会事象とも無関係でいることはできず、無視することもできない。スポーツを考える際の基礎的な知識を身に付け、考察する方法を学ぶ必要がある。本授業では、スポーツ社会学の枠組みを用いて、社会とスポーツの関係を探究し、その相互作用を深く理解するための視点と方法論を学んでいく。			
授業計画 第1回： 体育・スポーツ社会学とは ・社会学の対象としての体育およびスポーツ ・「体育・スポーツの社会学」における視角 第2回： 体育・スポーツの世界の生きづらさ ・学校体育、運動部活動、運動会の現代的課題 ・体育・スポーツの社会システム 第3回： メディアとスポーツ ・物語（言説）の生産と消費 ・情報社会化するスポーツ 第4回： ジェンダー・人種・身体とスポーツ ・社会的マイノリティの葛藤とスポーツ実践 ・スポーツのカテゴリ機能、言説の生産と消費 第5回： 逸脱行為（ドーピング）とスポーツ ・競技生活者の葛藤とスポーツ実践 ・スポーツにおける不正行為と正当性、妥当性 第6回： 相互行為としてのスポーツ ・トップ指導者の葛藤と実践 ・柔道指導者の事例からみる感情労働と社会的行為 第7回： スポーツの表象と「まなざし」 ・スポーツ界からの発信と社会通念の介入 ・社会から「監視」されるスポーツ 第8回： 身体感覚と身体知・身体技法 ・技の習得とその視点 ・東洋的身体技法、ボディワークの社会実践 ・柔術から柔道、そしてJUDOへ 第9回： 障がい者とスポーツ・パラリンピック ・社会モデルと医学モデル ・マイノリティのスポーツから見えるスポーツの性質、排除と包摂 第10回： 政治とスポーツ（ナショナリズム） ・スポーツの政治利用 ・スポーツと平和、戦争 第11回： 商業主義とスポーツ ・資本主義とスポーツの関係 ・金儲けの対象としてのスポーツ 第12回： 開発主義とスポーツ ・スポーツを通じた開発、スポーツによる開発 ・メガスポーツイベントと社会的なインパクト 第13回： 環境問題とスポーツ ・スポーツによる環境問題・環境問題によるスポーツへの影響 ・自然環境とスポーツ 第14回： 社会階級とスポーツ ・社会階級（階層）文化とスポーツの性向（好み） ・身体と習慣、文化資本 第15回： 授業のまとめと振り返り/到達度確認テスト 授業のまとめ、ふりかえり、到達度の測定			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 スポーツを考える-身体・資本・ナショナリズム（多木浩二著、1995、筑摩書房） 未来を拓くスポーツ社会学（山田明編、2020、みらい）			
学生に対する評価 到達目標に対して、各回での確認シートおよび授業態度 50%、試験（論述レポート型） 50%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 体育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：真田 久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 体育、スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、展開を長い時間軸の中でとらえ、今日の体育、スポーツのあり方を発展的に理解する。また、体育学、スポーツ学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育、スポーツを根底的に思考することのできる能力の育成を目指す。			
授業の概要 人類は誕生して以来、どのような身体運動、体育、スポーツを行ってきたのか、また、それはどのような時代、社会の中で展開されてきたのか。本講義では、人間と体育・スポーツの歩みを、時代と地域、社会的特性を考慮した通史（原子、古代、中世、近代、現代）を基に、日本と欧米を中心とした諸外国の体育の発展の歴史や、オリンピックといった国際スポーツ大会に関する歴史的内容を取り上げ、21世紀の体育、スポーツのあるべき方向を模索する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業内容と予定、評価方法について 第2回： 人類の進化とスポーツ 人類の誕生・進化と身体の変化 第3回： 古代のスポーツ① ギリシアの体育・スポーツとオリンピア競技祭 第4回： 古代のスポーツ② ローマの体育・スポーツと中国古代のスポーツ 第5回： 中世のスポーツ 西洋と日本の中世の体育・スポーツ 第6回： 近世および近代の体育思想 ルネサンス期と啓蒙時代の中での教育・体育観 第7回： 近代スポーツの発達 近代スポーツの誕生と普及 第8回： 近代オリンピックの創始 クーベルタンのオリンピズム 第9回： 日本の近代学校体育の成立 明治期における学校体育の発足 第10回： 近代体育・スポーツの展開 戦争とスポーツ 第11回： 欧米近代スポーツの日本への移入 軍事的近代化とスポーツの移入 第12回： 大正期、昭和初期の日本の学校体育 自由主義教育下と軍事教育下での取り組み 第13回： 現在体育・スポーツの動向① 戦後日本の体育・スポーツの転換 第14回： 現在体育・スポーツの動向② 戦後スポーツのグローバル化 第15回： まとめ 体育・スポーツ史を総括して 定期試験 なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 体育・スポーツ史概論（木村吉次編著、2015年、市村出版）			
学生に対する評価 到達目標に対して、受講態度・学習意欲40%、定期試験60%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 運動学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐野 淳、早田 剛 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の運動と器械や動物の運動の違いを理解するとともに運動学の意義を示すことができる。 2. 運動の外的構造と内的構造を理解する。 3. 動感創発身体知や動感促発身体知について、実際の運動場面と照らし合わせて理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>運動学は、人間の身体運動の構造や性質を、諸原理から選択して、系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。動きに関わる動作や意識に現れる「かたち」をその研究対象、分析対象にするという方法論をもち、そうした視点から現場の運動実践の問題解決に寄与しようとする理論を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション A運動学とは B運動学の領域と目的 C運動のとらえ方 第2回： 運動学習（1） 学習～学習曲線 第3回： 運動学習（2） 動機づけ～記憶 第4回： 運動の表し方 A運動の表示 B関節運動の表示 第5回： 身体運動と力学（1） A身体運動に関する力 B人体における単一機械構造 第6回： 身体運動と力学（2） C運動の法則 D仕事と力学的エネルギー 第7回： 運動器の構造と機能（1） A骨の構造と機能 B関節の構造と機能 第8回： 運動器の構造と機能（2） C骨格筋の構造と機能 第9回： 四肢と体幹の運動（1） 体幹と脊柱の運動 第10回： 四肢と体幹の運動（2） 上肢帯と肩関節の運動 第11回： 四肢と体幹の運動（3） 骨盤と股関節の運動 第12回： 四肢と体幹の運動（4） 膝・足関節の運動 第13回： 四肢と体幹の運動（5） 肘・手関節の運動 第14回： 動きに構造を見つける① 運動財を考える 第15回： 動きに構造を見つける② 戦術から運動をみる</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要な資料を毎時間配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>到達目標に対して、予習課題30%、授業課題・意見交換40%、確認小テスト・省察レポート30%の割合で、評価を行う。</p>			

授業科目名： 生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：十河 直太 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 人の生理機能の基礎的なしくみ及び運動が生理機能に及ぼす効果について、専門用語を理解し、体系化できる。			
2. 単に知識を習得するだけで無く、日常生活や体育・スポーツ活動に活用し、実践することができる。			
授業の概要			
主として、人の生理機能の基礎的なしくみについて学習する。また、生理学の応用として、運動時の反応や、発育・発達期及び中高年期における生理機能の特徴について学習する。さらに、水中という特殊環境や球技における生理的応答について学習する。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション 1-15回目の授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明			
第2回： 現代生活と生理学 現代生活における生理学の意義について解説			
第3回： 人のエネルギー供給 機構人のエネルギー供給機構に基づく、運動を発現させる理論的背景			
第4回： 酸素摂取の生理学 (1) 運動中の酸素摂取動態、最大酸素摂取量			
第5回： 酸素摂取の生理学 (2) 無酸素性作業閾値、無酸素性エネルギーの指標			
第6回： 呼吸器系のしくみと運動 呼吸器系のしくみと運動時の反応			
第7回： 循環器系のしくみと運動 循環器系のしくみと運動時の反応			
第8回： 筋系のしくみと運動 筋系のしくみ、力発揮から見た筋の働き			
第9回： 神経系のしくみと運動 神経系のしくみ、動作の神経調節機構、力の調節			
第10回： 消化・内分泌系のしくみと運動 消化・内分泌系のしくみと運動の効果			
第11回： 健康とは？ 体力とは？ 健康、体力の定義とその要因			
第12回： 発育・発達と運動 発育・発達に伴う体力・生理機能の変化			
第13回： 老化と運動 加齢に伴う体力・生理機能の変化			
第14回： 水中環境の生理学 水中環境（浮力、抵抗、水圧、水温）がもたらす生理的变化			
第15回： 球技の生理学 球技のエネルギー特性と各球技種目の選手に必要な生理的能力			
テキスト			
必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等			
運動生理学（オストランド・ラダール・浅野訳、1995、大修館書店）			
健康スポーツ科学（黒川隆志・山崎昌廣他、2000、技報堂出版）			
学生に対する評価			
到達目標に対して、出席意欲10%、小テスト等40%、定期試験 50%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川端隆志、保科 圭汰 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域社会さらには国民全体の健康増進、疾病予防のための方策を学ぶ科目である。</p> <p>《到達目標》</p> <p>公衆衛生の意義、現状を認識し、環境・保健・疫学・医療・福祉・介護等について基礎的な理解をすることにより、変化の著しい社会・環境に対応・判断・行動できる能力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>一次予防、二次予防および三次予防の理論に基づき、環境要因が健康あるいは社会全体に及ぼす影響について理解を深め、疾病予防や健康増進へのアプローチの方法、保健、福祉、医療に関する知識を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 公衆衛生の定義 公衆衛生の意義と目的</p> <p>第2回： 環境と健康①環境汚染と健康</p> <p>第3回： 環境と健康②生活環境および特殊環境と健康</p> <p>第4回： 健康、疾病、行動に関わる統計資料 人口静態統計、人口動態統計</p> <p>第5回： 保健衛生統計 生命表、傷病統計、その他の保健統計</p> <p>第6回： 疫学の概念 疫学の定義、対象や領域</p> <p>第7回： 疾病の測定と評価 エビデンスに基づいた保健対策</p> <p>第8回： ライフスタイルの現状と対策① 健康に関する行動と社会、食生活と食環境</p> <p>第9回： ライフスタイルの現状と対策② 喫煙行動、飲酒行動、休養、歯科保健活動など</p> <p>第10回： 主要疾患の疫学と予防、対策 悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患の現状、予防と対策</p> <p>第11回： 感染症 感染症の対策と動向</p> <p>第12回： 我が国の医療・保健制度① 医療制度、母子保健、高齢者保健、地域保健</p> <p>第13回： 我が国の医療・保健制度② 産業保健、学校保健、国際保健</p> <p>第14回： 保健・医療・福祉の関連法規 衛生法規、一般衛生法規</p> <p>第15回： まとめ 本講義の復習</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要な資料を毎時間配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>公衆衛生学入門（内藤通孝著、2014、昭和堂）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>到達目標に対して、毎回の課題点50%（レポート課題，意見交換），小テスト20%，最終課題30%の割合で、評価を行う。</p>			

授業科目名： 学校保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴江 毅 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、学校保健の役割とその実際を理解することを目指す。学校保健とは学校における児童・生徒の健康及び安全を推進する活動である。本講義では、児童・生徒の基本的な心身の機能や発育について認識すると同時に、彼らを取り巻く社会環境（運動の機会、食生活、友人や家族とのコミュニケーション、安全事情等）の今日的課題を察知し、今の子どもたちに必要な学校保健の方策について、各自が理解を深め、実践できる力を養う。			
授業の概要 本講義では、まず学校保健の意義、行政等について学び、ヘルスプロモーション、児童・生徒の発育発達、疾病・異常及び感染症について必要な知識を習得する。 次に、精神の健康と、障害のある児童・生徒への健康上の支援について学び、健康観察、健康相談、健康診断等に関する知識の獲得をはかる。加えて、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育についての理解を深め、学校環境衛生、食育、学校安全、応急手当、保健学習等について詳しく学ぶ。			
授業計画 第1回： 学校保健とは① 学校保健の意義、行政、教職員等の責任 第2回： 学校保健とは、ヘルスプロモーションの考え方 第3回： 児童・生徒の発育発達 児童・生徒の発育発達の特徴、体力の現状と課題 第4回： 児童・生徒の健康障害 児童・生徒における疾病・異常及び感染症の予防と対応 第5回： こころの健康と課題 児童・生徒の心の問題への対応、いじめの防止対策 第6回： 障害のある児童・生徒への健康上の支援 特別支援教育、障害の考え方と障害のある児童・生徒への支援 第7回： 児童・生徒の健康状態の把握 健康観察、健康相談、健康診断、保健調査の内容 第8回： 現代の健康教育 性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育 第9回： 学校環境衛生 学校環境衛生の考え方と管理方法 第10回： 学校における食育 現代の子どもにおける食の役割と重要性 第11回： 学校安全 事故・災害・犯罪被害の防止と発生時の対応 第12回： 応急手当 応急手当と心肺蘇生法 第13回： 保健教育 学習指導要領に基づく保健学習、及びその指導と評価 第14回： 学校保健経営 学校保健の組織活動、学校保健計画及び学校安全計画の意義と策定 第15回： まとめ 講義内容のまとめ及び小テストの振り返り			
テキスト 学校保健ハンドブック<第8次改訂>（教員養成系大学保健協議会、2024、ぎょうせい）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、受講態度30%、小テスト30%、定期試験40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 保健体育科指導法 I (基礎)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：清田 美紀、 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 保健体育科の基礎的知識を習得し、保健体育科の意義や目標・内容を理解するとともに、これからの保健体育科のあり方について考える能力を身に付ける。			
授業の概要 本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問である。中学校・高等学校の普通免許状(保健体育)の取得要件として設定されている専門科目であり、教員免許状だけでなく、将来教職に就くことを目指す者が履修する科目である。ここでは「生涯スポーツ」をキーワードに『21世紀の学校体育の在り方』を求めて、IからIVへの繋がりの中で、保健体育科教員として必要な資質や能力の基礎を培うことを目標とする。具体的には、学習指導要領の理解を中心に、保健体育科の目標・内容・方法に関して学び、保健体育科とはどのような教科なのか、保健体育科教員に求められているものは何かを探求していく。クラス分けに沿って受講すること。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション	授業の概要と進め方		
第2回：保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割		
第3回：保健体育科とはどのような教科なのか	体育のもつ特異性と危険性		
第4回：学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景		
第5回：保健体育科の今日的課題	体力低下と運動の二極化		
第6回：今、保健体育科に求められているもの	学習指導要領の目標の検討		
第7回：保健体育科のカリキュラム構成	小・中・高の繋がりと発展		
第8回：体育分野の目標と内容①	「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」領域		
第9回：体育分野の目標と内容②	「水泳」「球技」領域		
第10回：体育分野の目標と内容③	「武道」「ダンス」「体育理論」領域		
第11回：保健分野の目標と内容	「保健」領域		
第12回：運動の楽しさとは	運動の特性と分類		
第13回：体育的学力とは	学力と評価		
第14回：指導計画とは	指導計画の意義と方法		
第15回：まとめ	これからの保健体育科を考える		
テキスト 中学校学習指導要領解説 保健体育編、(平成29年7月告示 文部科学省)			
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編、(平成21年12月 文部科学省) 保健体育科教育(杉山重利・高橋健夫・園山和夫編(平成21年)、大修館出版)			
学生に対する評価 受講態度・学習意欲(ノート含)10%、毎回のミニレポート30%、定期試験60% 授業中の積極的・話題提供や意欲的発表、練り上げられたレポートは加点評価する。			

授業科目名： 保健体育科指導法Ⅱ (応用)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：清田 美紀、 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>1. 「保健体育」という教科は、「何のために」「何を」「どのように」学習者に提供すればいいのか、学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することが出来る。（必要に応じてICTを効果的に活用できる。）</p> <p>2. 保健体育授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができ、複数回にわたる模擬授業を通して実践的な指導力を培う。</p>			
授業の概要			
<p>本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目であり、教員免許状取得だけにとどまらず、将来教職に就くことを目指すものが履修する科目である。そこで、本科目は、教員養成を目的とし、すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、教育実習につながる授業実践力の基礎を培うものとして、授業づくりのための基本的な考え方や教材づくり、授業計画の立案の仕方を学ぶ。特に、教材開発や授業実践においてICTを効果的に活用する方法を学び、複数回にわたる模擬授業を通じて実践的な指導力を養う。</p> <p>従って、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション	授業の概要と進め方		
第2回：よい体育授業とは	よい体育授業の条件		
第3回：教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法（ICTの利活用を含む）		
第4回：体育分野の教材づくり	典型教材から学ぶ		
第5回：集団種目の教材研究	グループワークによる教材の選定と作成（ICTの利活用を含む）		
第6回：集団種目教材の実践	模擬授業と省察		
第7回：個人種目の教材研究	グループワークによる教材の選定と作成（ICTの利活用を含む）		
第8回：個人種目教材の実践	模擬授業と省察		
第9回：教師の4大行動	優れた授業に学ぶ		
第10回：保健分野の教材研究	教材の選定と学習活動の工夫（ICTの利活用を含む）		
第11回：保健教材の実践	保健教材のワークショップと改善		
第12回：指導案を読み解く	実践事例から授業設計をとらえる		
第13回：指導計画の作成①	単元計画の作成と改善		
第14回：指導計画の作成②	位時間計画の作成と改善		
第15回：まとめ	よい授業に向けて、保健体育教師に求められるもの		
テキスト			
中学校学習指導要領解説 保健体育編、（平成29年7月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編、（平成21年12月 文部科学省）			
保健体育科教育（杉山重利・高橋健夫・園山和夫編（平成21年）、大修館出版）			
学生に対する評価			
毎回のミニレポート 30%、指導案 20%、試験 50%			
練り上げられたノートやグループワーク・ワークショップへの貢献度は加点評価する。			

授業科目名： 保健体育科指導法Ⅲ（ 発展）	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：清田美紀 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （1）教師として高い使命を持って授業に取り組む姿勢を理解する。（2）各領域における授業づくり・教材づくりの基本的な考え方を理解する。（3）教師のよりよい指導法や子どもとの関わり方について理解する。（4）授業評価の基本的な理解にたつて、教師としての力量形成のあり方について理解を深める。			
授業の概要 保健体育科指導法Ⅲでは、3年次4年次で行われる教育現場での教育実習に対する具体的準備を行っていく。学習指導要領に記載されている各領域の学習内容について確認するとともに、具体的な授業イメージをつかむために授業VTRを視聴する。また後半では、体育授業の構造および授業づくりの方法を理解し、模擬授業の立案・実施・反省の活動を行う。			
授業計画 第1回：授業内容の説明・導入 保健体育科指導法を学ぶ意義、体育科の目標構造 第2回：よい体育授業とは よい体育授業の構造と教材づくりの考え方 第3回：体育の授業づくりの構造、指導計画の作成と手順 体育授業のつくり方と指導計画の立て方 第4回：体づくり運動、陸上運動・陸上競技 特性とねらい、学習内容、指導のポイント、評価（1） 第5回：器械運動、水泳 特性とねらい、学習内容、指導のポイント、評価（2） 第6回：ボール運動・球技 特性とねらい、学習内容、指導のポイント、評価（3） 第7回：武道、表現運動・ダンス 特性とねらい、学習内容、指導のポイント、評価（4） 第8回：体育理論、保健の授業 特性とねらい、学習内容、指導のポイント、評価（5） 第9回：体育授業の研究・分析法 形成的授業評価と組織的観察法 第10回：模擬授業の準備 グルーピング、役割分担、授業内容の決定 第11回：模擬授業の立案 模擬授業づくり（指導案作成） 第12回：模擬授業（1） 模擬授業の実施、評価、分析（1） 第13回：模擬授業（2） 模擬授業の実施、評価、分析（2） 第14回：模擬授業（3） 模擬授業の実施、評価、分析（3） 第15回：模擬授業の反省および教育実習での心構え 模擬授業をデータから振り返る、教育実習へ向けて			
テキスト 「新版体育科教育学入門」（高橋健夫 編著（平成22年）、大修館書店）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 保健体育編、（平成29年7月告示 文部科学省）			
学生に対する評価 授業中の提出物 20%、ミニレポート 30%、レポート 50%			

授業科目名： 保健体育科指導法Ⅳ（ 実践）	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：清田美紀 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （1）教師として高い使命を持って授業に取り組む姿勢を理解する。（2）効果的な教授技術のあり方について基本的な考え方を理解する。（3）授業評価の基本的な理解にたつて、次時の授業の改善策を立案できる。（4）2回の模擬授業を通して教師の実践的指導力形成のあり方について理解する。			
授業の概要 保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅲの模擬授業や教育実習での体験を下に、「さらにどうすればより効果的な体育授業を進めることができるか」を探求していく。特に教授技術に焦点化した講義を行い、より効果的な教授技術のあり方について検討する。また、模擬授業や教育実習の成果と課題を基にした2回の模擬授業の立案・実施・反省を行う。			
授業計画 第1回：授業内容の説明・模擬授業・教育実習の成果と課題の検討 心がまえと準備、グルーピング、模擬授業・教育実習の成果と課題の検討 第2回：模擬授業・教育実習の成果と課題のまとめ 教模擬授業・育実習の成果と課題についてまとめ 第3回：課題解決に向けた授業づくり（理論）効果的な教授技術のあり方について検討 第4回：課題解決に向けた授業づくり（実践）効果的な教授技術向上にむけた課題の検討 第5回：模擬授業のねらいと授業観察の方法 模擬授業の意義、授業観察の方法 第6回：教育実習の成果と課題を基にした模擬授業①の準備 役割分担、授業内容の決定 第7回：模擬授業①の指導案作成と検討 模擬授業①の指導案づくり 第8回：模擬授業①（1）授業の実施、評価、分析（1） 第9回：模擬授業①（2）授業の実施、評価、分析（2） 第10回：模擬授業①の反省 模擬授業をデータから振り返る 第11回：教育実習の成果と課題を基にした模擬授業②の準備 役割分担、授業内容の決定 第12回：模擬授業②の指導案作成と検討 模擬授業②の指導案づくり 第13回：模擬授業②（3）授業の実施、評価、分析（3） 第14回：模擬授業②（4）授業の実施、評価、分析（4） 第15回：模擬授業②の反省と授業のまとめ 模擬授業②をデータから振り返る、授業のまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 新版体育科教育学入門（高橋健夫 編著（平成22年）、大修館書店） 中学校学習指導要領解説 保健体育編、（平成29年7月告示 文部科学省）			
学生に対する評価 授業中の提出物20%、ミニレポート30%、レポート50%			

授業科目名： 人権と教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 紀行 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本国憲法が保障する人権の基礎知識を習得することを第一の目的とします。特に、憲法26条にある教育を受ける権利について理解を深めます。また、教育に対する問題意識をもつとともに、学校や社会における差別とその解決手法を考える能力を身につけます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業の到達目標及びテーマに沿って、印刷教材に基づいた学習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本国憲法下での教育権論争と現在の課題 第2回：未成年者の人権享有主体性 第3回：生徒の自己決定権 第4回：日の丸・君が代と学校 第5回：宗教と公立学校 第6回：生徒と政治 第7回：教育情報の本人開示と公開 第8回：教科書の検定、採択、給付、使用 第9回：学校事故の賠償と防止 第10回：障害児の教育を受ける権利 第11回：外国人の子どもの教育を受ける権利 第12回：親の教育の自由 第13回：教師の「教育の自由」 第14回：私立学校と憲法 第15回：児童の権利条約</p>			
<p>テキスト</p> <p>[改訂版] 憲法と教育15講（米沢広一著、2011年、北樹出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>当該科目の課題に合格（60点以上）し、試験に合格（60点以上）することで単位を認定する。</p>			

授業科目名： 学力と評価	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鉦 悠介 担当形態：単独																														
科 目	大学が独自に設定する科目																																
施行規則に定める 科目区分又は事項等																																	
授業のテーマ及び到達目標 学力と評価について学び、求められる学力観と評価観を形成することを目指します。「確かな学力観」「評価のあり方」について学び、子どもたちの学力保障と成長保障の両全を実現できる確かな理解を目指します。																																	
授業の概要 到達目標を達成するために、次の内容について学びます。 ①教育評価の意義、②教育評価の立場、③教育評価の機能、④教育目標と評価、⑤学力評価の方法、⑥教育実践の改善、⑦教育評価の制度 記載されている教科書を熟読し、それを基にしっかりと論じてください。																																	
授業計画 <table border="0"> <tr> <td>第1回： 教育評価の基本概念</td> <td>教育評価とは</td> </tr> <tr> <td>第2回： 教育評価の立場の変遷</td> <td>教育評価の機能（診断的評価・形成的評価・総括的評価など）</td> </tr> <tr> <td>第3回： 教育評価の位相と展開</td> <td>到達度評価評価規準と評価規準</td> </tr> <tr> <td>第4回： 教育目標と教育評価の関係</td> <td>ルーブリックなど</td> </tr> <tr> <td>第5回： 指導に生かす評価のあり方</td> <td>指導と評価の一体化カルテと座席表子どもの自己評価</td> </tr> <tr> <td>第6回： 教育評価の進め方①</td> <td>国語、算数、社会、理科における評価</td> </tr> <tr> <td>第7回： 教育評価の進め方②</td> <td>生活科、外国語、音楽、における評価</td> </tr> <tr> <td>第8回： 教育評価の進め方③</td> <td>図画工作・美術、技術・家庭、体育、総合的な学習の時間の評価</td> </tr> <tr> <td>第9回： 教育評価の進め方④</td> <td>道徳、特別活動、障害児教育の評価</td> </tr> <tr> <td>第10回： 指導要録・通知表</td> <td>指導要録観点別評価通知表</td> </tr> <tr> <td>第11回： 教育評価の経営（学力調査）</td> <td>PISA調査全国学力学習状況調査校内研修</td> </tr> <tr> <td>第12回： 教育評価の経営（学校評価）</td> <td>学校評価学校評議員制コミュニティスクール</td> </tr> <tr> <td>第13回： 入試制度</td> <td>大学入試偏差値内申書</td> </tr> <tr> <td>第14回： 教育評価の歴史・諸外国の評価</td> <td>日本における教育評価の歴史諸外国の教育評価制度</td> </tr> <tr> <td>第15回： まとめ</td> <td>これまでの学びの振り返りと深化・発展</td> </tr> </table>				第1回： 教育評価の基本概念	教育評価とは	第2回： 教育評価の立場の変遷	教育評価の機能（診断的評価・形成的評価・総括的評価など）	第3回： 教育評価の位相と展開	到達度評価評価規準と評価規準	第4回： 教育目標と教育評価の関係	ルーブリックなど	第5回： 指導に生かす評価のあり方	指導と評価の一体化カルテと座席表子どもの自己評価	第6回： 教育評価の進め方①	国語、算数、社会、理科における評価	第7回： 教育評価の進め方②	生活科、外国語、音楽、における評価	第8回： 教育評価の進め方③	図画工作・美術、技術・家庭、体育、総合的な学習の時間の評価	第9回： 教育評価の進め方④	道徳、特別活動、障害児教育の評価	第10回： 指導要録・通知表	指導要録観点別評価通知表	第11回： 教育評価の経営（学力調査）	PISA調査全国学力学習状況調査校内研修	第12回： 教育評価の経営（学校評価）	学校評価学校評議員制コミュニティスクール	第13回： 入試制度	大学入試偏差値内申書	第14回： 教育評価の歴史・諸外国の評価	日本における教育評価の歴史諸外国の教育評価制度	第15回： まとめ	これまでの学びの振り返りと深化・発展
第1回： 教育評価の基本概念	教育評価とは																																
第2回： 教育評価の立場の変遷	教育評価の機能（診断的評価・形成的評価・総括的評価など）																																
第3回： 教育評価の位相と展開	到達度評価評価規準と評価規準																																
第4回： 教育目標と教育評価の関係	ルーブリックなど																																
第5回： 指導に生かす評価のあり方	指導と評価の一体化カルテと座席表子どもの自己評価																																
第6回： 教育評価の進め方①	国語、算数、社会、理科における評価																																
第7回： 教育評価の進め方②	生活科、外国語、音楽、における評価																																
第8回： 教育評価の進め方③	図画工作・美術、技術・家庭、体育、総合的な学習の時間の評価																																
第9回： 教育評価の進め方④	道徳、特別活動、障害児教育の評価																																
第10回： 指導要録・通知表	指導要録観点別評価通知表																																
第11回： 教育評価の経営（学力調査）	PISA調査全国学力学習状況調査校内研修																																
第12回： 教育評価の経営（学校評価）	学校評価学校評議員制コミュニティスクール																																
第13回： 入試制度	大学入試偏差値内申書																																
第14回： 教育評価の歴史・諸外国の評価	日本における教育評価の歴史諸外国の教育評価制度																																
第15回： まとめ	これまでの学びの振り返りと深化・発展																																
テキスト 新しい教育評価入門 [増補版]（西岡加奈恵 他編、2022、有斐閣）																																	
参考書・参考資料等 なし																																	
学生に対する評価 到達目標に対して、毎回の授業課題 40%、授業に取り組む姿勢 20%、学期末課題 40%の割合で、評価を行う。																																	

授業科目名： 介護等体験実習	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 1単位	担当教員名：林 栄昭 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 社会福祉施設や特別支援学校において合計7日間の実習を行い、様々な活動体験を行う。また、そのための事前指導では、介護等体験の意義や目的、方法などについて学習する。社会福祉施設の利用者や特別支援学校で学ぶ子どもに触れることで、教員としての視野を広げ、幅広い人権意識を身に付けることを目的とする。			
授業の概要 介護等体験は小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする人に義務付けられている。個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性の観点から、社会福祉施設や特別支援学校において、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの方との交流等を体験する。			
授業計画 第1回： 事前指導 (1) 介護等体験の概要、意義、手続きについて 第2回： 事前指導 (2) 社会福祉施設での実習について 第3回： 事前指導 (3) 特別支援学校での実習について 第4回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (1日目) 第5回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (2日目) 第6回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (3日目) 第7回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (4日目) 第8回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (5日目) 第9回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (6日目) 第10回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (7日目) 第11回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (介護等体験日誌の作成と報告書の構成) 第12回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (お礼状の作成と送付準備) 第13回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (体験から得た学びの整理と自己評価) 第14回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (実習における課題と解決策の考察) 第15回： 実習 社会福祉施設、特別支援学校での実習 (介護等体験の総括と教職への示唆) 定期試験 なし			
テキスト 『介護等体験の手引き』			
参考書・参考資料等 教師を目指す人の介護等体験ハンドブック 五訂版 (現代教師養成研究会、2020、大修館書店) 介護等体験ガイドブック 新フィリア (全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟、2020、株式会社ジアース教育新社) 第5版 よくわかる社会福祉施設一教員免許志願者のためのガイドブック (増田雅暢他、2018年、社会福祉法人全国社会福祉協議会)			
学生に対する評価 ガイダンス、事前指導等への参加状況 (遅刻やスーツでない等は減点もしくはその時点で参加取り止めとなる)、書類や各種の手続きの締め切り遵守の状況、事後のお礼状や報告書の提出状況、日誌の書き方などを総合的に評価する。			

授業科目名： 道徳教育の理論及び指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：木野 正一郎 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学が独自に設定する科目 ・道徳の理論及び指導法 		
授業のテーマ及び到達目標 特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようになる。			
授業の概要 本授業では、小・中学校における道徳教育の内容や指導法について理解し、教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な指導力を育成することをめざす。現代社会は価値多元化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに中学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。			
授業計画 第1回：道徳教育の本質と歴史 学校における道徳教育の本質及び道徳教育の歴史、道徳教育の今日的な課題 第2回：道徳教育の目標 教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と特別の教科道徳の目標 第3回：道徳教育の内容 道徳教育の指導内容と発達に即した内容の系統 第4回：道徳教育の指導計画（1） 道徳教育の全体計画及び特別の教科道徳の年間指導計画の意義と内容 第5回：道徳教育の指導計画（2） 全教育活動における道徳教育の活動の具体及び家庭・地域との連携の内容と活動の具体、いじめ防止並びに情報モラルに関するリテラシー形成 第6回：小学校道徳科の授業の組み立て方（1） 小学校道徳科の授業の構想 第7回：小学校道徳科の授業の組み立て方（2） 実態に基づく教材分析とねらいの設定 第8回：小学校道徳科の授業の組み立て方（3） 小学校道徳科の授業の指導過程と発問の組み立て方 第9回：小学校道徳科の学習指導案の作成 道徳科の学習指導案の作成 第10回：中学校学習指導案の作成（1） 中学校道徳科の授業の構想 第11回：中学校道徳科の授業の組み立て方（2） 実態に基づく教材分析とねらいの設定 第12回：中学校道徳科の授業の組み立て方（3） 中学校道徳科の授業の指導過程と発問の組み立て方 第13回：中学校道徳科の学習指導案の作成 道徳科の学習指導案の作成 第14回：模擬授業 模擬授業の実施と道徳科の特質を踏まえた授業展開についての議論 第15回：児童生徒理解に基づく道徳教育・道徳科の評価 道徳教育・道徳科における評価の方法と内容			
テキスト 小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編(平成29年7月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編(平成29年7月告示 文部科学省)			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。また、以下の2つの資料を紹介する。 小学校学習指導要領(平成29年告示 文部科学省)解説 総則編 東山書房 中学校学習指導要領(平成29年告示 文部科学省)解説 総則編 東山書房			
学生に対する評価 受講態度・レポート 40%、指導案 30%、試験 30%			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林 紀行 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 ①授業で扱った主要なテーマについて、重要な憲法学的知識（基本概念、条文・判例・学説など）を論述することができる。 ②各種公務員試験等の本格的対策をするに際して学習を進めやすい素養を獲得している。			
授業の概要 本講義は、裁判例・通説を前提とした我が国の現行憲法（日本国憲法）の解釈論を中心について検討していく。また、学術的に重要な論点のみならず、各種公務員試験に臨むにあたって最低限必要となる日本国憲法に関する知識や、教員が備えるべき素養としての日本国憲法に関する知識にも配慮した講義を行う。			
授業計画 第1回： ガイダンス 講義の進行方法や学習方法、評価方法について 第2回： 日本国憲法とは 憲法の基礎知識と日本国憲法の歴史と構成について 第3回： 国民主権と象徴天皇制 国民主権、象徴天皇制、皇位継承のルール、天皇の権限 第4回： 平和主義 我が国の平和主義の歴史的沿革や意義 第5回： 基本的人権Ⅰ 基本的人権の尊重 第6回： 基本的人権Ⅱ 法の下での平等 第7回： 基本的人権Ⅲ 精神的自由 第8回： 基本的人権Ⅳ 経済的自由 第9回： 基本的人権Ⅴ 人身の自由 第10回： 基本的人権Ⅵ 社会権 第11回： 基本的人権Ⅶ 参政権・国務請求権 第12回： 統治機構Ⅰ、Ⅱ 国会、内閣 第13回： 統治機構Ⅲ 裁判所 第14回： 統治機構Ⅳ 地方自治 第15回： 憲法改正、全体総括 憲法改正についてとこれまでの授業内容の要点およびまとめ			
テキスト グラフィック憲法入門 第2版（毛利透著、新世社）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、課題レポート・小テスト60%、試験40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 体育理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：片桐 夏海 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標 体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践ができるようになることを目標とする。			
授業の概要 本講義では、体育の理論を学ぶことにより、健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践が必要であることを明らかにする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防や心身相関について理解をし、運動や健康の維持、増進のために必要な体力などに関する講義を行う。			
授業計画 第1回： 考えてみよう私たちと運動 自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動を実践できることを学ぶ。 第2回： 身につけよう運動 体育理論の実践と方法として様々な観点から身体に及ぼす効果について学習する。 第3回： 学校における体育の役割 身体活動が児童の発達や望ましい社会生活に貢献しうる能力を持たせる重要な役割であることを学ぶ。 第4回： 見つめよう心と体 学校教育における体育の実践と方法を学ぶ。心と体の相関関係、欲求やストレスの対処法を学び、体ほぐし運動を解明する。 第5回： 運動と栄養 運動、栄養は栄養管理することを大前提として、パフォーマンスを上げる「運動と栄養の4つの基本」を学ぶ。 第6回： 生活習慣病の種類とその予防 日本の三大死因である癌・脳卒中・心臓病の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病の要因について学び、食生活、運動不足、飲酒、喫煙の重要性および、その予防について学ぶ。 第7回： 脳と身体つながり 脳と身体の関係性について学び、頭を使えば身体もよくなり、身体を鍛えれば脳も発達していくことを学ぶ。 第8回： 生涯スポーツの意義 今あらためてスポーツとは何なのか、なぜ人はスポーツを続けていくのか？私たちにとってスポーツとは？を学び、テストを実施する。 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、課題50%、テスト50%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 体育実技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：十河 直太 担当形態：単独																																													
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目																																															
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育																																															
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。</p> <p>《到達目標》</p> <p>①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる。</p> <p>②各種目型スポーツ（ゴール型、ネット型、ベースボール型）やインクルーシブスポーツを楽しむための方法を知る</p> <p>③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。</p>																																																
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、各種目型スポーツ（ゴール型、ネット型、ベースボール型）やインクルーシブスポーツを実践するだけでなく、客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育とスポーツの融合』を具現化すべく、様々なスポーツを実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。</p>																																																
<p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：</td> <td>オリエンテーション</td> <td>受講上の注意、評価方法、講義の概念</td> </tr> <tr> <td>第2回：</td> <td>アイスブレイク</td> <td>アイスブレイクの解説、実践</td> </tr> <tr> <td>第3回：</td> <td>球技（ゴール型）</td> <td>サッカーのルール解説、基本技術の習得</td> </tr> <tr> <td>第4回：</td> <td>球技（ゴール型）</td> <td>サッカーの応用技術の修得、ミニゲーム</td> </tr> <tr> <td>第5回：</td> <td>球技（ネット型）</td> <td>バレーボールのルール解説、基本技術の習得</td> </tr> <tr> <td>第6回：</td> <td>球技（ネット型）</td> <td>バレーボールの応用技術の修得、ミニゲーム</td> </tr> <tr> <td>第7回：</td> <td>球技（ネット型）</td> <td>バドミントンのルール解説、基本技術の習得</td> </tr> <tr> <td>第8回：</td> <td>球技（ネット型）</td> <td>バドミントンの応用技術の修得、ミニゲーム</td> </tr> <tr> <td>第9回：</td> <td>球技（ベースボール型）</td> <td>ソフトボールのルール解説、基本技術の習得</td> </tr> <tr> <td>第10回：</td> <td>球技（ベースボール型）</td> <td>ソフトボールの応用技術の修得、ミニゲーム</td> </tr> <tr> <td>第11回：</td> <td>器械運動</td> <td>マット運動の解説、技術習得</td> </tr> <tr> <td>第12回：</td> <td>器械運動</td> <td>跳び箱の解説、技術習得</td> </tr> <tr> <td>第13回：</td> <td>インクルーシブスポーツ</td> <td>ボッチャのルール・種目の解説、ミニゲーム</td> </tr> <tr> <td>第14回：</td> <td>インクルーシブスポーツ</td> <td>モルックのルール・種目の解説、ミニゲーム</td> </tr> <tr> <td>第15回：</td> <td>まとめ</td> <td>実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る</td> </tr> </table>				第1回：	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概念	第2回：	アイスブレイク	アイスブレイクの解説、実践	第3回：	球技（ゴール型）	サッカーのルール解説、基本技術の習得	第4回：	球技（ゴール型）	サッカーの応用技術の修得、ミニゲーム	第5回：	球技（ネット型）	バレーボールのルール解説、基本技術の習得	第6回：	球技（ネット型）	バレーボールの応用技術の修得、ミニゲーム	第7回：	球技（ネット型）	バドミントンのルール解説、基本技術の習得	第8回：	球技（ネット型）	バドミントンの応用技術の修得、ミニゲーム	第9回：	球技（ベースボール型）	ソフトボールのルール解説、基本技術の習得	第10回：	球技（ベースボール型）	ソフトボールの応用技術の修得、ミニゲーム	第11回：	器械運動	マット運動の解説、技術習得	第12回：	器械運動	跳び箱の解説、技術習得	第13回：	インクルーシブスポーツ	ボッチャのルール・種目の解説、ミニゲーム	第14回：	インクルーシブスポーツ	モルックのルール・種目の解説、ミニゲーム	第15回：	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る
第1回：	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概念																																														
第2回：	アイスブレイク	アイスブレイクの解説、実践																																														
第3回：	球技（ゴール型）	サッカーのルール解説、基本技術の習得																																														
第4回：	球技（ゴール型）	サッカーの応用技術の修得、ミニゲーム																																														
第5回：	球技（ネット型）	バレーボールのルール解説、基本技術の習得																																														
第6回：	球技（ネット型）	バレーボールの応用技術の修得、ミニゲーム																																														
第7回：	球技（ネット型）	バドミントンのルール解説、基本技術の習得																																														
第8回：	球技（ネット型）	バドミントンの応用技術の修得、ミニゲーム																																														
第9回：	球技（ベースボール型）	ソフトボールのルール解説、基本技術の習得																																														
第10回：	球技（ベースボール型）	ソフトボールの応用技術の修得、ミニゲーム																																														
第11回：	器械運動	マット運動の解説、技術習得																																														
第12回：	器械運動	跳び箱の解説、技術習得																																														
第13回：	インクルーシブスポーツ	ボッチャのルール・種目の解説、ミニゲーム																																														
第14回：	インクルーシブスポーツ	モルックのルール・種目の解説、ミニゲーム																																														
第15回：	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る																																														
<p>テキスト</p> <p>必要な資料を毎時間配布する。</p>																																																
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>																																																
<p>学生に対する評価</p> <p>到達目標に対して、レポート課題60%、試験40%の割合で、評価を行う。</p>																																																

授業科目名： 英会話	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： Anton Johannes Potgieter
			担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。			
授業の概要 初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の進め方、成績評価の方法などについて説明 第2回： Unit 1: 英語によるコミュニケーション 自己紹介；相手のことを尋ねる；自分について自己紹介する 第3回： Unit 2: いろいろな人々 容姿について説明する；性格の特徴を説明する；自分の興味について話し合う 第4回： Unit 3: 余暇 趣味について話す；スポーツの特徴について説明する；エクストリームスポーツについて話し合う 第5回： Unit 4: まわりの人々 家族について話す；生活環境について話し合う；仲の良い友達について説明する 第6回： Unit 5: お金 買い物の習慣や好みについて話す；褒める；贈り物を提案する；支出の習慣や考え方について話し合う 第7回： Unit 6: 旅行 過去の旅行について説明する；休暇に関する調査について話す；有名な場所について話し合う；旅行に持っていくものについて話す 第8回： プレゼンテーション (1) 英語でプレゼンテーションを行う 第9回： Unit 7: 食べ物と飲み物 食べ物について話す；食習慣を説明する；食事の計画を立てる；伝統的な食事や珍しい食べ物について説明する 第10回： Unit 8: 娯楽 映画やテレビ番組について話し合う；テレビ調査を受ける；テレビ番組のスケジュールを計画する 第11回： Unit 9: 健康 健康的なライフスタイルについて話し合う；健康と睡眠習慣に関するクイズをとく；睡眠と夢について話し合う 第12回： Unit 10: 自己啓発 物事を記憶する方法について話す；問題について話し合い、良いアドバイスを 第13回： Unit 11: 都市 道案内；都市について話す；場所をお勧めする；楽しい一日を計画する 第14回： Unit 12: 習慣 人々が休日を祝う方法について話す；マナーについて議論したり助言を与えたりする；習慣を比較する 第15回： プレゼンテーション (2) 英語でプレゼンテーションを行う			
テキスト Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD (Leo Jones, Cambridge University Press)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 情報リテラシー I（基礎）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本庄 慶樹 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特に情報リテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。			
授業の概要 AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。			
授業計画 第1回： ICT活用の必要性 LMSとクラウドの活用 第2回： クラウドとグループワーク環境 検索、ファイル共有とネットモラル 第3回： Eメールとドキュメント作成環境 文字入力と変換、ドキュメントの書式設定 第4回： Wordビジネス文書（1）文書作成ルール ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール 第5回： Wordビジネス文書（2）図形描画と画像の挿入 スクリーンショット、図形挿入と描画ツール、画像処理、アクセシビリティを考える 第6回： Wordビジネス文書（3）スマートアート スマートアートを基に文章のまとめ、アウトラインを考える 第7回： Wordレポート（1）表組 文字を表にする、表組を使って体裁を整える 第8回： Wordレポート（2）スタイルとデザイン スタイルやテンプレートの意義を考える 第9回： Wordレポート（3）レポート作成 文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更 第10回： Word総合課題 プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習 第11回： PowerPointプレゼンテーションの作成と管理 PowerPoint基本操作とスライドマスター設定 第12回： PowerPointアニメーション・スライドショー設定 アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える 第13回： PowerPointプレゼンテーション資料制作 動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える 第14回： PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作 グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション 第15回： PowerPoint総合課題 プレゼンテーション資料や配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 教育の思想と原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：酒井健太郎 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 教育思想家たちの思想を理解し、現代の観点からその有用な点と受け入れられない点を説明できる。</p> <p>② 「子ども」「教員」「学校」「社会」などのキーワードを自身の言葉で説明できる。</p> <p>③ 「教育とは何か」という問題に関する自身の答えを示すことができる。</p>			
授業の概要			
<p>この授業は「教育原理」と「教育思想」の両側面から成る。教育原理とは、端的に言えば教育の「そもそも」を考えるものである。「子ども」や「学校」を代表とする教育の必要不可欠な構成要素が「そもそも」いかなることを意味するのか。これはそれほど簡単な問ではない。他方、教育思想については、読んで字の如く教育についての思想を、特にその歴史（思想史）を学ぶものである。およそ2500年前の古代ギリシア以来、教育思想家と呼ばれる人々は多く存在する。彼らの思想をただ点として記憶するのではなく線として有機的に理解することが肝要となる。これら両側面の学習を並行して進めていくことで、教育の「思想と原理」を十全に把握することが可能になるだろう。というのも、特定の教育原理の背景にはそれについて論じた思想家が存在し、思想家たちの見解はその原理に関する議論の文脈のうちで提唱されたものだからである。</p> <p>それゆえ本授業では、教育原理における「子ども」「教員」「学校」「社会」の4つのトピックについて、それらを考察した教育思想家たちの見解を参照しつつ考察する。このような学習を通じて「教育とは何か」という問題に自分なりの答えを提出することで、優れた教師になるための第一歩を踏み出してもらいたい。教育原理なき教育思想は空虚であり、教育思想なき教育原理は盲目である。</p>			
授業計画			
第1回：導入	教育とは何か」という問題の難しさ—教育原理と教育思想の必要性、教職論		
第2回：子ども (1)	教育を通して善き人へ「発達」できるか？—校則、習慣、ケア、生徒指導		
第3回：子ども (2)	教育史における子どもと家族—子どもの発見、児童の権利、子どもの生活史		
第4回：子ども (3)	養護と教育から構成される「保育」—フレーベル、倉橋惣三、モンテッソーリ		
第5回：教員 (1)	教育の方法—ペスタロッチとヘルバルトの教育方法、オンライン授業の教育方法		
第6回：教員 (2)	教育内容としての専門知と教養—古代ギリシア以来の教養観の変遷、教職教養		
第7回：教員 (3)	教えないことによる教育—想起説・助産術、消極教育、なすことによる学ぶ		
第8回：幕間	教育思想と教育原理の連続性—近代教育制度の成立と展開、公教育の原理		
第9回：学校 (1)	教科教育と高等教育—教育カリキュラム、コメニウス、フンボルト、探究学習		
第10回：学校 (2)	遊びを通じた教育—遊ぶ人間、ホイジンガ、カイヨワ、学校教育における遊び		
第11回：学校 (3)	教育のトポスとしての学校—いじめ、不登校、近代学校制度、進歩主義教育		
第12回：社会 (1)	コミュニティと教育—教科書検定制度、道徳教育、教育評価、デュルケム		
第13回：社会 (2)	宗教と教育—宗教に関する寛容の態度、キリスト教教育思想における学校と学習		
第14回：社会 (3)	教育格差—教育の機会均等、学校教育とメリトクラシー、配分的正義		
第15回：総括	「教育とは何か」再考—自由と規律、教育的タクト、教育理論と教育実践		
テキスト			
特に指定しない。			
参考書・参考資料等			
平成29年改訂幼稚園教育要領（平成29年告示、文部科学省）			
小学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省）			
中学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省）			
高等学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省）			
教育思想史（今井康雄編、有斐閣）			
問いからはじめる教育史（岩下誠 et al. 編、有斐閣）			
教育の歴史と思想（貝塚茂樹・広岡義之編著、ミネルヴァ書房）			
教育思想事典 増補改訂版（教育思想史学会編、勁草書房）			
問いからはじめる教育学（勝野正章・庄井良信、有斐閣）			
なぜからはじめる教育原理 [第2版]（池田隆英 et al. 編著、建帛社）			
やさしい教育原理 第3版（田嶋一 et al.、有斐閣）			
よくわかる教育原理（汐見稔幸 et al. 編著、ミネルヴァ書房）			
※そのほか適宜、教育思想家たち自身のテキストについて指示する			
学生に対する評価			
試験（50%）、事後課題（50%）			

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本 孝司 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。			
授業の概要 本講義では、教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よろこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。			
授業計画 第1回：本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明 第2回：①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。 第3回：教師（学校）をとりまく社会の状況から、求められる教師像とそのための資質能力を理解する。 第4回：幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。 第5回：小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。 第6回：中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。 第7回：教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。 第8回：サービスの根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。 第9回：学級経営の原理と方法について実践事例をもとに理解する。 第10回：生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。 第11回：①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織及びチーム学校について理解する。 第12回：①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。 第13回：教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。 第14回：①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。 第15回：①これまでの学びをふり振り返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験に向けて、見通しをもつ。			
テキスト 『新しい視点から見た教職入門』（中田正浩・代表編著、2020、4、大学教育出版） 『生徒指導提要』（文部科学省、2010、3、教育図書）			
参考書・参考資料等 『改訂 実践教育評価辞典』（梶田叡一、2010、8、文溪堂） 『教育フォーラム50＜やる気＞を育てる』（梶田叡一、2012、8、金子書房） 『学校メンタルヘルスハンドブック』（日本学校メンタルヘルス学会、2017、9、大修館書店）			
学生に対する評価 試験（70%）、レポート課題（30%）			

授業科目名： 教育と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：濱嶋幸司 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 本科目を受講することにより、教育と社会との関係を新たな視点で捉え直します。常識として受け入れてきた、教育的な社会通念に疑問を向けることにより、教育という社会的営為がどのような役割を持つのかを確認していきます。			
授業の概要 授業の到達目標及びテーマに沿って、印刷教材に基づいた学習を行う。 本科目は社会学の立場から「教育」を通じて我々の社会を眺め直す学問です。通常、「教育」と聞けば真っ先に「学校」が思い浮かぶでしょう。しかし「教育」という現象は「学校生活」の限られた空間・時間だけでなく、家庭や身近な大人たち、地域社会との関わりの中で日常的に発生する、不断の社会的営為なのです。 本科目では、教育にまつわる様々な事象を社会との関係性において捉え、そうした観点から受講生がこれまで過ごして来た学校生活、社会生活を振り返り、また「教師」および「学校」を広く社会の文脈において捉え直し、受講生自らの思索によって新たな理解に到達することを目的とします。			
授業計画 第1回：社会の中の教育 教育と社会のかかわりについて 第2回：家族と社会化 家族の役割と子どもの社会化 第3回：家庭教育と子育て環境 家庭における教育の種類、子育て環境と教育 第4回：学校と社会（初等教育・中等教育の発展過程） 第5回：学級経営と教師（制度的力、文化的力、権力） 学校組織の理解と教師の自律性 第6回：カリキュラムの社会学（カリキュラムマネジメント、隠れたカリキュラム） カリキュラムの意義とカリキュラムマネジメント 第7回：非行／逸脱の教育問題①（いじめ、不登校、小1プロブレム） 不登校と長期欠席の理解、教育問題としてのいじめ 第8回：非行／逸脱の教育問題②（児童虐待、少年非行） 児童虐待社会問題化の背景、少年非行凶悪化の俗説 第9回：ジェンダーと教育 隠れたカリキュラムとジェンダー 第10回：教育と行政 教育行政の理解 学校と地域との連携の意義や方法、学校安全への対応を理解 第11回：教育課程の社会的変遷 学習指導要領の変化と教育目標 第12回：学歴社会と格差（メリトクラシー、社会階層） 第13回：社会的排除と教育 排除・包摂の基準と教育 第14回：国際社会の中の教育 教育のグローバル化と現代的課題 第15回：人口減少社会における学校と教育 学校教育の将来像と次世代に求められる教育			
テキスト 柴野昌山・菊池城司・竹内洋編（1992）『教育社会学』有斐閣ブックス			
参考書・参考資料等 刈谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗（2015）『教育の社会学』有斐閣アルマ 刈谷剛彦（2005）『学校って何だろう』ちくま文庫			
学生に対する評価 課題に合格（60点以上）し、試験に合格（60点以上）することで単位を認定する。			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安永 和央 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 授業概要で述べる内容に関する理論的な知識や実践的な知識を獲得し、これらの知識を実際の保育・教育場で活かすことができる力を身につける。			
授業の概要 本講義では、乳幼児期から青年期までの身体的・認知的発達について学び、これらの特徴を踏まえて、動機づけや学習指導、教育評価、子どもの支援等に関する理解を深める。			
授業計画 第1回：心と身体の発達：乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期における発達の特徴 第2回：認知と思考の発達：ピアジェの認知発達理論 第3回：人間関係と社会性の発達：親子関係、友人関係、道徳性の発達 第4回：学習の理論：古典的条件づけ、道具的条件づけ 第5回：記憶のメカニズム：感覚記憶、短期記憶、長期記憶 第6回：動機づけ：外発的動機づけ、内発的動機づけ、学習性無力感 第7回：学習指導：プログラム学習、発見学習、有意味受容学習、協同学習 第8回：教育評価：診断的評価、形成的評価、総括的評価、絶対評価、相対評価、個人内評価 第9回：教育統計：平均値、標準偏差 第10回：所属集団：所属する集団の変化、公式集団、非公式集団、集団規範 第11回：教師と子どもの関係：ハロー効果、ステレオタイプ、ピグマリオン効果 第12回：パーソナリティ：類型論と特性論、観察法、面接法、心理検査法 第13回：発達障害の理解と支援：学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症 第14回：問題行動の理解と対応：非社会的行動、反社会的行動 第15回：生徒指導と教育相談：生活指導、進路指導、児童・生徒と保護者への援助			
テキスト 【改訂版】実践につながる教育心理学（櫻井茂男 監・黒田祐二 編、北樹出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 試験（70%）、レポート課題（30%）			

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大久保 諒 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ (1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 (2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について具体的な内容を理解している。			
授業の概要 発達心理学は人間の乳幼児期から老年期までの生涯にわたる身体、行動、能力などの心身の成長、発達過程を心理学の理論を背景として研究するものである。本授業では、主に乳幼児期から青年期までの発達を中心に、発達心理学の基礎知識や理論とともに、実践に役立つ具体例や研究知見等も取り上げ、講義やディスカッションを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／発達心理学とは) 第2回：幼児期・児童期・青年期の発達 第3回：からだと運動 第4回：知覚 第5回：認知と思考 第6回：感情と欲求 第7回：ことばとコミュニケーション 第8回：人間関係 第9回：子どもの心とからだの発達過程～男の子と女の子の違い～ 第10回：想像力の発達～子どものウソは嘘かを検証する 第11回：子ども中心の保育～遊び（楽習）により非認知スキルを育てる～ 第12回：自己（自己の認識、自己の理解と評価、気質の個人差） 第13回：向社会性と差別・偏見 第14回：現代社会とメディア 第15回：発達をつまづき			
テキスト 発達心理～ことばの獲得と学び～（内田伸子、サイエンス社） やさしく学ぶ発達心理学（浜崎隆司・田村隆弘編著、ナカニシヤ出版）			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領解説（文部科学省著、フレーベル館） 保育所保育指針解説（厚生労働省著、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府著、フレーベル館） 小学校学習指導要領（文部科学省著） 中学校学習指導要領（文部科学省著） 高等学校学習指導要領（文部科学省著）			
学生に対する評価 課題（30%）、中間レポート（35%）、期末レポート（35%）			

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大野呂浩志 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の保育上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解するとともに、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育や支援の方法を理解する。また、障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の保育上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育とは何か 第2回：特別支援教育の歴史的変遷 第3回：インクルーシブ教育システムの構築、学校・園における合理的な配慮 第4回：保育園・幼稚園・学校における特別支援教育（特別支援教育の現状と課題） 第5回：障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅰ（視覚障害の特性の理解と自立活動を含む指導・支援について） 第6回：障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅱ（聴覚障害の特性の理解と自立活動を含む指導・支援について） 第7回：障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅲ（肢体不自由の特性の理解と自立活動を含む指導・支援について） 第8回：障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅳ（知的障害の特性の理解と自立活動を含む指導・支援について） 第9回：障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅴ（病弱・虚弱、その他多様な特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の特性の理解と自立活動を含む指導・支援について） 第10回：障害のある子どもの特性と教育的支援Ⅵ（発達障害の特性の理解と自立活動を含む指導・支援について） 第11回：自立活動の理解（教育課程の上の位置付けと通級による指導の意義の理解を含む） 第12回：個別的教育支援計画と個別の指導計画の理解と活用（外国につながる子供や貧困の問題への適用を含む） 第13回：校内支援体制（校内委員会・特別支援教育コーディネーター）と保護者との連携 第14回：専門機関、福祉機関、地域との連携の必要性と在り方 第15回：特別支援教育における保育士、教諭（幼・小・中・高）の役割、早期発見・早期支援・特別支援学校への接続について</p>			
<p>テキスト</p> <p>特別支援教育総論 インクルーシブ時代の理論と実践（河合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳編著、2016年、北大路書房）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験（70％）、確認テストや小レポート課題（30％）</p>			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中原 朋生 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①教育課程に関する理念、理論について事例を用いて学生自身の言葉で説明できる。</p> <p>②幼稚園教育要領（就学前）・学習指導要領（就学後）の歴史と現在を背景にある理論の変遷とともに学生自身の言葉で説明できる。</p> <p>③カリキュラム・マネジメントの理念や方法を活用して、理想とする学校園のカリキュラム構造図をモデル的に作成できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では就学前（幼稚園・こども園・保育所）から就学後（小・中・高・特別支援学校）に至るまで、カリキュラムを編成し運用するために共通に必要な理論と方法について、講義及びアクティブラーニングを通して学ぶ。</p> <p>講義は単元1「教育課程の基礎理論」、単元2「幼稚園教育要領・学習指導要領の歴史と理論」、単元3「教育課程とカリキュラム・マネジメント」の3つ単元により展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>○単元1「教育課程の基礎理論」</p> <p>第1回：学生自身のカリキュラム観の吟味</p> <p>第2回：計画としてのカリキュラム・経験としてのカリキュラム</p> <p>第3回：教育行政としてのカリキュラム・潜在のカリキュラム</p> <p>○単元2「幼稚園教育要領・学習指導要領の歴史と理論」</p> <p>第4回：就学前カリキュラムの編成原理（遊びを通じた学習）</p> <p>第5回：幼稚園教育要領の歴史と現在</p> <p>第6回：就学前カリキュラムの実際と編成方法</p> <p>第7回：就学後カリキュラムの編成原理（教科を通じた学習）</p> <p>第8回：学習指導要領の歴史1（経験主義・系統主義）</p> <p>第9回：学習指導要領の歴史2（新しい学力観・生きる力）</p> <p>第10回：学習指導要領の歴史3（資質・能力の育成）</p> <p>○単元3「教育課程とカリキュラム・マネジメント」</p> <p>第11回：新しい教科の提案コンテスト1（カリキュラム・マネジメントの必要性和構想）</p> <p>第12回：新しい教科の提案コンテスト2（グループ別提案コンテスト）</p> <p>第13回：理想の学校の教育課程構造図づくり1（教育目標・目的と教育課程の関連）</p> <p>第14回：理想の学校の教育課程構造図づくり2（カリキュラム・マネジメントによる新領域）</p> <p>第15回：理想の学校の教育課程構造図づくり2（構造図プレゼンコンテスト）</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>平成29年改訂幼稚園教育要領（平成29年告示、文部科学省）</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省）</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省）</p> <p>なぜからはじめる教育原理 [第2版]（池田隆英 et al. 編著、建帛社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験（60%）、構造図プレゼン等（40%）</p>			

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤井 健太郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等に指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 総合的な学習の時間においては教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。したがって以下の点を修得することをめざす。1. 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について理解している。2. 総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。3. 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。			
授業の概要 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解することができ、指導計画作成に必要な基礎的な能力を身に付け、指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解することができるようにする。			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間の目標 第2回：総合的な学習の時間の内容 第3回：総合的な学習の時間の指導計画 第4回：全体計画及び年間指導計画の作成 第5回：単元計画作成のポイント 第6回：総合的な学習の時間の学習指導（探究過程を中心に） 第7回：総合的な学習の時間の評価と評価方法 第8回：総合的な学習の時間の体制づくり 第9回：総合的な学習の時間の実践事例（1）学級経営との関連（小学校の事例から） 第10回：総合的な学習の時間の実践事例（2）現代的な教育課題との関連（中学校の事例から） 第11回：総合的な学習の時間の実践事例（3）異校種間交流（幼・保育園と高等学校の事例から） 第12回：総合的な学習の時間の指導案 第13回：総合的な学習の時間の指導案作成の実際（小学校を例に） 第14回：総合的な学習の時間の指導案作成の実際（中学校、高等学校を例に） 第15回：総合的な学習の時間の指導法のまとめ			
テキスト 小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（小学校） 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（中学校） 高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編（高等学校）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 授業（40%）、レポート（60%）			

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤井 健太郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動の全体目標を歴史的・現代的視点から理解する。 2 学級活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事それぞれにおける目標と内容、実践例について理解する。 3 学級活動・HR活動の指導案を書き、指導案に基づいて模擬授業や発表を行うことにより実践的指導力を身に付ける。授業概要で述べる内容に関する理論的な知識や実践的な知識を獲得し、これらの知識を実際の保育・教育場面で活かすことができる力を身につける。 			
授業の概要			
「望ましい集団活動」や「体験的な活動」を通して、「豊かな学校生活」を築くとともに「公共の精神」を養い、「社会性の育成」を図るという特別活動の特質を踏まえ、特に「より良い人間関係」を築く力や「社会に参画する態度」「自治的能力の育成」を重視した講義・演習を行う。			
授業計画			
第1回：授業の進め方、評価方法等について理解する。特別活動についての最近の話題から、特別活動の意義を理解する。			
第2回：特別活動の特質・教育的意義について、考察する。それぞれの特別活動の経験と学びについて、討論する。			
第3回：特別活動の目標・内容・特質などの基本的性格について考察する。明治以降の特別活動の変遷について考察する。			
第4回：生徒指導・HR活動と特別活動との関連を考察する。また、子どもたちの人間関係に関わる今日的課題について考察する。特別活動における望ましい人間関係づくりについてグループ討論を行う。			
第5回：キャリア教育の要としての特別活動について考察する。特別活動における児童の人間関係形成やキャリアプランニング力の育成についてグループ討論を行う。			
第6回：学級活動・HR活動の目標と内容について、考察する。指導計画と学習指導案の作成と授業の展開についてのグループ活動を行う。			
第7回：児童・生徒会活動の目標、内容について考察する。指導計画と指導上の配慮事項についてグループ討論を行う。			
第8回：クラブ活動及び学校行事の目標、内容について考察する。指導計画と指導案の作成、指導上の配慮事項についてグループ活動を行う。			
第9回：グループで学級活動・HR活動の実践プランを作成する。			
第10回：グループで学級活動・HR活動の実践プランを作成し、仕上げる。			
第11回：グループで学級活動・HR活動の実践プランを発表する。			
第12回：指導計画と教育課程の関係、計画種類とその立て方等について考察する。			
第13回：グループで学校行事の実践プランを作成する。			
第14回：グループで学校行事の実践プランを作成し、仕上げる。			
第15回：グループで学校行事の実践プランを発表する。			
テキスト			
『小学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省、2017、東洋館出版社）			
『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省、2017、東洋館出版社）			
『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省、2018、東洋館出版社）			
参考書・参考資料等			
『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(特別活動指導資料)』（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター、2019、文溪堂）			
『新学習指導要領の展開 特別活動編』（杉田洋、2017、明治図書）			
『実践的指導力をはぐくむ特別活動指導法改訂版』（渡部邦雄他、2019、日本文教出版）			
学生に対する評価			
試験（70％）、レポート・課題（30％）			

授業科目名： 教育の方法及び技術（ 情報通信技術の活用含 む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木野正一郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 教育現場における教育方法・技術、ICT活用の意義・背景・理論について理解できる。</p> <p>(2) 社会の中で求められる資質・能力（情報活用能力を含む）の育成と教育方法・技術、ICTの活用とのつながりについて説明することができる。</p> <p>(3) 各教育現場の目的や状況に応じて、どのような教育方法・技術やICTを活用すべきかを適切に選択・判断できる。</p>			
授業の概要			
<p>Society 4.0から5.0へ転換しようとする時代を展望し、そのような時代にあって教育現場でどのような教育方法・技術、ICTを活用すべきかを検討していく。その際、教育方法・技術、ICTについて「その背景や歴史」、「これらを活用して育成しようとする資質・能力」、「具体例」等を概括的に学びながら検討を行う。最終的には、これらの学びを踏まえて、各教育各教育現場の目的や状況に応じて、どのような教育方法・技術やICTを活用すべきかを適切に選択・判断できる力を身につけることを目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、教育の方法・技術に関わる諸概念</p> <p>第2回：教育方法の歴史</p> <p>第3回：現代の教育方法の理論的背景</p> <p>第4回：授業における教師の役割と指導技術</p> <p>第5回：教育における評価</p> <p>第6回：教育の技術の具体例①（話法、板書等）</p> <p>第7回：教育の技術の具体例②（学習指導案等）</p> <p>第8回：現代社会におけるICT活用の背景と意義</p> <p>第9回：情報活用能力（情報モラルを含む）の「背景」・「内容」・「発達段階との関連」</p> <p>第10回：教師のICT活用指導力とデジタルコンテンツや外部人材等の活用</p> <p>第11回：個別最適化な学びとICT活用・遠隔授業の意義と関連システム</p> <p>第12回：特別支援・幼児教育におけるICT活用</p> <p>第13回：児童・生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）育成のための指導法</p> <p>第14回：校務の情報化とデータ活用</p> <p>第15回：本授業のまとめ 学校とテクノロジーのこれから</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
<p>平沢茂編著（2018）『三訂版 教育の方法と技術』図書文化社。</p> <p>稲垣忠・佐藤和紀編著（2021）『ICT活用の理論と実践－DX時代の教師を目指して－』北大路書房。</p> <p>文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。</p> <p>文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版社。</p> <p>文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房。</p> <p>文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東洋館出版社。</p>			
学生に対する評価			
毎回実施するミニレポート（45%）、最終レポート（55%）			

授業科目名： 生徒指導・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金網 知征、森本 哲介 担当形態：オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
授業の到達目標及びテーマ 生徒指導は、教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。また、進路指導は、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。 本科目では、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導・進路指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることを目的としている。また、キャリア教育として、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。			
授業の概要 本授業においては、すべての児童および生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、生徒の抱える主な生徒指導・進路指導上の課題と、校内外の連携も含めた対応の在り方をケーススタディ等を通じ理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の進め方や評価方法、児童生徒たちの抱える生徒指導上の課題について理解する。 (金網 知征) 第2回：生徒指導の意義と理論① 生徒指導の意義やそれを支える原理について理解する。(金網 知征) 第3回：生徒指導の意義と理論② 生徒指導における生徒指導・教育相談それぞれの体制について理解する。 (金網 知征) 第4回：児童生徒それぞれの発達の特徴と生徒指導の課題 児童生徒それぞれの発達の特徴について理解し、そのうえで生徒指導の課題について理解する。(金網 知征) 第5回：校務分掌や学校の指導方針に基づく組織的な取組 校務分掌や学校の指導方針の重要性やそれに基づく学校全体での組織的な取組について理解する。(金網 知征) 第6回：個々の児童および生徒への指導① 校則や懲戒、体罰等の生徒指導上に関する法令等について理解する。 (金網 知征) 第7回：「いじめ」等と生徒指導① 児童生徒における「いじめ」や「不登校」、「特別な配慮を必要とする児童生徒への生徒指導」について理解する。(金網 知征) 第8回：「いじめ」等と生徒指導② 児童生徒における「いじめ」や「不登校」、「特別な配慮を必要とする児童生徒への生徒指導」について具体的事例等をもとにグループ討論を行う。(金網 知征) 第9回：「いじめ」等と生徒指導③ 児童生徒における「いじめ」や「不登校」、「特別な配慮を必要とする児童生徒への生徒指導」について具体的事例等をもとにグループ討論を行う。(金網 知征) 第10回：進路指導・キャリア教育の意義と理論① 進路指導・キャリア教育の意義やそれを支える原理について理解する。 (森本 哲介) 第11回：進路指導・キャリア教育の意義と理論② 学校教育全体における進路指導・キャリア教育の位置づけや指導体制、関係機関との連携について理解する。(森本 哲介) 第12回：児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導のあり方① キャリア教育の視点に立ったカリキュラム・マネジメントの意義について理解する。(森本 哲介) 第13回：児童生徒への進路指導・キャリア教育における留意事項 児童生徒への進路指導・キャリア教育を行う際の留意点について整理し、進路指導・キャリア教育の意義について「全体指導」という観点から理解する。(森本 哲介) 第14回：キャリア形成と自己評価の意義、キャリアカウンセリング 生涯を通じたキャリア形成の視点に立ち、自己評価の意義を確認する。そのうえでポートフォリオの活用やそのあり方について理論的・具体的に理解する。また、キャリアカウンセリングの考え方・実践方法について理解する。(森本 哲介) 第15回：総括 全体のまとめを行う。(金網 知征)			
テキスト 文部科学省『生徒指導提要(令和4年12月)』東洋館出版社、2023年。			
参考書・参考資料等 <ul style="list-style-type: none"> ・友清由希子ほか編著『問い続ける 学び続ける 生徒指導・キャリア教育』北大路書房、2024年。 ・宮城まり子『キャリアカウンセリング(21世紀カウンセリング叢書)』駿河台出版社、2002年。 ・有村久春『キーワードで学ぶ特別活動・生徒指導・教育相談(改訂三版)』金子書房、2017年。 			
学生に対する評価 授業レポート・小テスト(60%)、試験(40%)			

授業科目名： 教育相談（中等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本 木ノ実 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身に付ける。			
授業の概要 学校における教育相談の意義と理論を理解するとともに、教育相談を進める際に必要な基礎的な知識（カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む）を理解し、具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。			
授業計画 第1回：「オリエンテーション」：学校における教育相談とは 第2回：「教育相談の意義と校内体制について」：教育相談の意義と機能、校内体制について 第3回：「子どもの発達の特徴と理解」：子どもの発達について、その特徴と個性、個人差について 第4回：「カウンセリングの基本について」：学校カウンセリングの基本について 第5回：「カウンセリングの基本的態度」：カウンセリングの基本的態度についてのワーク 第6回：「不登校の児童への対応①」：不登校の定義、実態、基本的対応について 第7回：「不登校児童への対応②」：不登校に対する基本的な姿勢と対応についてのグループワーク 第8回：「いじめへの対応①」：いじめの定義と、構造、対応の基本的姿勢について 第9回：「いじめへの対応②」：いじめに対する基本的な姿勢と対応についてのグループワーク 第10回：「特別な支援の必要な児童への対応①」：特別な支援についての基礎的な知識と現状について 第11回：「特別な支援の必要な児童への対応②」：特別な支援の基本的な姿勢と対応についてのグループワーク 第12回：「保護者への対応①」：保護者対応の重要性とポイントについて 第13回：「保護者への対応②」：保護者対応の基本的な流れと他機関との連携について 第14回：「教師のメンタルヘルスについて」：教師自身のストレスマネジメントについて 第15回：「まとめ」			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブッカー子どもの育ちを支えるー（向後礼子、山本智子（2014年5月10日）、ミネルヴァ書房）			
学生に対する評価 授業レポート・小テスト 60%、試験 40%			

〈シラバス〉 教職（中高保健体育）

授業科目名： 教職実践演習(中学校・高等学校)		単位数：2 単位		担当教員名 教科担当教員：早田 剛 教職担当教員：清田美紀	
科 目	教職に関する科目（教職実践演習）				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 20 人					
教員の連携・協力体制 教職科目担当の教員が本授業を担当し、必要に応じて「教科に関する科目」担当の教員や現職の教員の協力を得て実施する。					
授業の到達目標及びテーマ 大学の授業等で履修した内容を統合し、教師に必要な資質を上げ、今日的な教育問題へ対応できる能力を培う。またコミュニケーション能力・生徒指導力・教科教授力の定着を図る。					
授業の概要 第 1 回から第 6 回までは教員に求められる共通的な資質能力を一層培う。第 7 回から第 15 回までは授業を中心とした実践能力の向上を図る。今までに学んだ教育指導理論や実習体験を再度整理し、履修カルテの活用や振り返りを通して自分自身の弱点を克服する。その際、事実に基づいた振り返りとなるよう、データの収集や分析に ICT を導入する。模擬授業等を取り入れ、実践的な指導力の向上を図る。					
授業計画 第 1 回 開かれた人間関係作りのためのワークショップ（早田・清田） 第 2 回 教員に求められる使命感・教育的愛情・人権感覚について、現場教員の話を変えての討論（清田） 第 3 回 教育実習中の体験をもとにした、教師の使命感・教育的愛情・人権感覚に関するグループ討議（清田） 第 4 回 上記の問題解決および具体的な実践のためのロールプレイ(教育現場で必要となる ICT 演習を含む) (清田) 第 5 回 学級開きにおける効果的な学級づくり活動の模擬授業や学級通信の制作(教育現場で必要となる ICT 演習を含む) (清田) 第 6 回 いじめや不登校の問題について解決のためのロールプレイ(教育現場で必要となる ICT 演習を含む) (早田・清田) 第 7 回 進路にあわせたカリキュラムの編成演習(教育現場で必要となる ICT 演習を含む) (早田・清田) 第 8 回 中学保健体育から高校保健体育へのスムーズな移行の具体例の討議と演習 (早田・清田) 第 9 回 特色ある取組をしている近隣校の授業参観とグループ討議 (早田・清田) 第 10 回 参観授業を参考に課題討論を行い多面的な理解を得る (早田・清田) 第 11 回 中学と高校の保健体育科教材の対応関係を討議し理解を深める (早田・清田) 第 12 回 公平な評価をするためのテスト問題の作成 (教育現場で必要となる ICT 演習を含む) (早田・清田) 第 13 回 教科の指導について(1)評価の在り方 (教育現場で必要となる ICT 演習を含む)(早田・清田) 第 14 回 教科の指導について(2)板書・教案作成の確認(教育現場で必要となる ICT 演習を含む) (早田・清田) 第 15 回 教員に求められる資質についてグループ討議を踏まえて教師としての自らの課題を整理(早田・清田)					
テキスト 中学校学習指導要領解説（保健体育編） 高等学校学習指導要領解説（保健体育編）					
参考書・参考資料等 今日的な教育問題や教科指導に関する自主プリントを別途用意					
学生に対する評価 積極的な授業参加、指導案、模擬授業、教育実習を総合的に評価する。 授業における課題等のレポート 50% 授業における諸活動 50%					

※1 学生のこれまでの教職課程の履修履歴を把握するための履修カルテを作成し、それを踏まえた指導を行う体制が備えられている場合には○と記載。

※2 授業計画の立案に当たって、当該教育委員会又は学校の意見を聞いた場合には○と記載。